

鳥の自主研修(約20分)

質問①→②→③→④の順にご自身の回答を記入後、別添資料を読み、答え合わせをします。



問① 鳥の苦情相談について

問② 鳥の採光について

問③ 鳥の病気について

問④ 人と鳥の共通感染症について



12

問① 鳥の苦情相談について青色部分に文章を入れてください。

保健所等に寄せられる飼い鳥に関する苦情相談の主なものは、

- 清掃の不徹底による[]の飛散
- 多数飼育による臭い、害虫の発生
- ニワトリ、オウム等[]
などです。

地域の中で人と動物が調和のとれた生活をしていくためには、動物の飼い主と飼っていない人の相互の理解が欠かせません。

それにはまず、飼い主が周囲の人の立場を考慮して責任ある飼い方をすることが最も重要です。

13

問② 鳥の採光について青色部分に文章を入れてください。

○採光

鳥の健康のために日光浴も大事です。

1日15分間でも日光にあたることで、[]の形成を促し、成長を促進します。

夏の強い日光の直射にあうと[]にかかることもあり、夏なら朝のうちに日光浴をさせるなど、季節により工夫が必要です。

大きな鳥かごや禽舎なら日の当たる場所と当たらない場所を作り、鳥自身が好きな時間に日光浴ができるようにするとよいでしょう。

14

問③ 鳥の病気について青色部分に文章を入れてください。

○[]

飼鳥全般にみられる病気です。動きが鈍くなり、飛べなくなってしまう個体もいます。

[]は基礎疾患としても重要で、肝臓疾患、痛風、糖尿病など種々の病気を続発します。

予防としては、規則正しい生活と栄養バランスを考えた餌にすべきです。

猛禽類を除く全ての鳥種には青菜の給餌を忘れてはなりません。

○[]

全ての鳥種で罹患し、若鳥に多発する傾向があります。

特にラブバードでは特徴的な症状を出します。

一般的にはくしゃみ、咳、流涙、眼結膜の発赤・腫脹、鼻汁の排泄などがみられます。

その他、異常呼吸音や呼吸速迫、声の異常といった症状も発現します。

慢性化すると完治しにくいので、早期治療が重要となります。

15

問④ 人と鳥の共通感染症について青色部分に文章を入れてください。

○

比較的多く発生している病気です。
病鳥や保菌鳥の糞中のクラミジアを吸い込むことで感染します。
また、口移しでえさを与えたり、かまれたりして感染する場合があります。

発病した鳥は元気がなく、さえずりもなくなり、目を閉じて羽を逆立ててふくらんでいます。また、下痢がみられます(お尻がよごれる)。

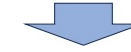
雛や若鳥で症状が重く、死亡することが多いのですが、成鳥では無症状のことがあります。

人が感染すると高熱、頑固な咳など、に似た症状がみられ、重症の場合は肺炎をおこします。

16

爬虫類の自主研修(約20分)

質問①→②→③→④にの順にご自身の回答を記入後、別添資料を読み、答え合わせをします。



問① 爬虫類の体温調節について

問② 爬虫類の食事と水について(前半)

問③ 爬虫類の食事と水について(後半)

問④ 飼育ケージ、人畜共通感染症について



17

問① 爬虫類の体温調節について青色部分に文章を入れてください。

爬虫類は、一般に考えられているように単にの温度で体温が決定されるのではなく、朝のうちや、エサを食べたあとなどは日光浴をして体温を上げたり、逆に暑いときには涼しい場所に避難して、積極的に体温を調整しています。飼育下でもこのような行動がとれるように、飼育ケージ内に場所による温度差を設けるようにします(これをと呼びます)。

爬虫類は外温動物ですから、それぞれの種の要求に沿った温度管理を行う必要があります。温度により機能が変動し、成長、内分泌、消化などに大きな影響を与えます。

わが国の夏の気温は、種によっては致命的な場合があり、低温を好む種の飼育にあたっては、エアコンによる温度管理が必要な場合もあります。

と呼ばれる高温の場所をケージの一方に設置し、もう一方は低温になるように、このためにも飼育ケージにはゆとりのあるサイズが要求されます。

18

問② 爬虫類の食事と水について青色部分に文章を入れてください。

人工飼料が非常に発達しており、これだけで終生飼育が可能なガメ類以外の種においては、飼育している種に合ったエサを与えなければなりません。

肉食の種には、エサ用に販売されている昆虫類やマウス、魚、貝類、脂肪分の少ない肉などをそれぞれの種の食性に合わせて与えます。

特にコオロギやミルワームといった昆虫類はカルシウム・比が悪いので必ずカルシウムの粉末をまぶして与えるようにします。

これに加えてビタミン、ミネラルなどの粉末も定期的に加えます。マウスは完全栄養であると考えられることが多いのですが、されたものはビタミンが破壊されていることを考慮し、やはり定期的なビタミンの添加が推奨されます。

19

問③ 爬虫類の食事と水ついて青色部分に文章を入れてください。

草食種には、市販の野菜、果実、野草などを与えます。ここでも [] とビタミンの添加は必須となります。

雑食で何でも食べるから飼育しやすいという表現をされる種がありますが、これは逆に様々なものを [] よく与える必要があるということで、必ずしも飼育しやすいわけではありま
入手しやすい食餌に偏ることのないように注意が必要です。

飲用の水は必ず用意します。[] 類には止水を水と認識しない種があり、霧を吹いたり、ドリップ式の容器を用意する必要もあるでしょう。

乾燥した地域に生息するリクガメ類には、水を飲もうとしない個体が見受けられます。このような場合は、無理に飲ませようとするよりは、食餌に [] などの水分量の多いものを混ぜて与えるとよいでしょう。ヘビ類には必ず全身を浸すことのできる水容器を設置します。

20

問④ 飼育ケージ、人畜共通感染症について、青色部分に文章を入れてください。

(飼育ケージ)一般的に求められる条件は、飼育個体に対して十分な [] を持つこと、脱走できないこと、[] や [] の管理がしやすいこと、給餌や清掃といったメンテナンスがしやすいこと、観察がしやすいことなどです。

小型種であっても、[] スペースを与えないと精神的に [] しない種や個体が存在します。個体が小さいからといって短絡的に小さなケージで飼育することは避けるべきでしょう。

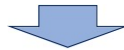
世界で約200種類近くある「人と動物の共通感染症」の中で、爬虫類から人に感染する恐れのある代表的な病気は [] 菌による感染症です。国内でも [] から感染した事例があり、新聞などで報道され注意が呼びかけられたことがあります。

[] 症は細菌性食中毒の代表といえますが、人に感染すると急性胃腸炎の症状が出て、時には [] を起こし生命にかかわる事態となることもあり、5歳未満の子供や高齢者、基礎疾患のある人(糖尿病などの免疫機能が低下する疾患)及び妊婦は特に注意を要します。

21

馬の自主研修(約20分)

質問①→②→③→④の順にご自身の回答を記入後、別添資料を読み、答え合わせをします。



問① 馬の病気について

問② 馬の正常な体温・脈拍などについて

問③ 馬の観察・記録について

問④ 飼養衛生管理基準について



22

問① 馬の病気について次の青色部分に文章を入れてください。

競走馬が疾走するためには、骨、筋肉、心臓、肺をはじめとした臓器が健常であることが必要不可欠です。

骨や筋肉の異常は、歩様の乱れとして現れやすいため発見は比較的容易ですが、[] や [] の異常は運動を負荷しないと分かりにくいことが多いようです。

競走馬の呼吸器疾患のうち、喉頭片麻痺のような上気道の異常は、運動を負荷すると現れやすい疾患ですが、気管支炎や [] に代表される下気道疾患は、症状や重症度を把握することが難しい疾患です。

しかし、気管支炎や [] は、競走馬の運動能力に大きく影響し、ときにその生命をも奪いかねない重要な疾患ですので注意が必要です。

23

問② 馬の正常な体温・脈拍などについて青色部分に正常値を入れてください。間違ってもOKです。

(1) 体温

成馬の平熱は ~ °C (微熱は °C、中熱は °C、高熱は °C 以上)
幼駒ではやや高めである。

(2) 脈拍数

幼駒の脈拍は 80~120 回/1分、当才は 60~80 回/1分、1歳は ~ 回/1分、
成馬の脈拍は ~ 回/1分

(3) 呼吸数

静止時の成馬の呼吸数は 8 ~ 回/1分

24

問③ 馬の観察について青色部分に文章を入れてください。

【馬の観察・記録】

馬が快適に飼養されているか確認するため、馬の健康状態を常に把握しておくことが重要である。馬の健康悪化の兆候として、 の変化、 の状態の変化、目やに、鼻水、下痢、食欲不振、倦怠状態、速く不規則な、持続的な咳や喘ぎ、震え、発汗の異常、跛行、異常行動等が挙げられる。

飼養環境が馬にとって快適か把握するため、毎日記録をつけることが重要である。

記録する項目として、馬の健康状態、疾病及び事故の発生の有無並びにその原因、飼料の給与量又は摂取量、水が適切に給与されているか、 及び 温度、湿度等が挙げられる。

25

問④ 飼養衛生管理基準について青色部分に文章を入れてください。

馬の所有者は、飼養する馬について、馬の 疾病の発生の予防及びまん延の防止に対する責任を有する。

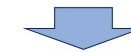
関係法令を遵守するとともに、この項及び飼養衛生管理 の規定を踏まえ、農場の 体制を構築し、農場の所在地域で飼養されている馬の所有者その他の関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行うこと。

また、馬の所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあつては、常時連絡が可能である体制を確保し、この項の取組について確実に当該飼養衛生管理者に実施させること。

26

ウサギの自主研修(約20分)

質問①→②→③→④にの順にご自身の回答を記入後、別添資料を読み、答え合わせをします。



問① ウサギの生態等について

問② ウサギの繁殖と管理等について

問③ ウサギの手入れ等について

問④ ウサギの病気等について



27

問① ウサギの生態ついて青色部分に文章を入れてください。

耳は血管が張りめぐらされた敏感なところであり、が発達していないため、ここで体温調節の役目を果たしています。

に弱い動物の1種といえます。反面、水はよく飲み、水分が不足すると自分の尿を飲むようになりますし、子育てのときは子を食べてしまいます。

本来、性であり、食性は草食性。木の皮や若木、草やその根、実、畑の作物などを食べています。

と固くて丸い便の2種類の便をし、はもう一度肛門から直接食べてビタミンB12などの未消化栄養素を吸収するという二重消化の特徴をもっています。

28

問② ウサギの繁殖と管理等ついて青色部分に文章を入れてください。

オスには順位制があります。寿命は、5年～年で、性成熟は品種により違いがあり4～10ヵ月(大型種ほど遅い)です。排卵のため1年中繁殖可能ですが、だいたい1年に3～4回(1回に4～7羽)繁殖するようです。妊娠期間は30～35日で離乳期は45日前後です。

ふだんはおとなしいですが、不妊手術をしていない場合、発情すると特にオスは気が荒くなり、咬まれると思わぬケガをすることがあります。

また、鋭いに指を当てただけでもケガをする場合がありますので、幼児や児童が扱う場合には注意が必要です。

体臭はほとんどありませんが、の量が多いので、処理を怠ると臭気がひどくなります。

29

問③ ウサギの手入れ等ついて青色部分に文章を入れてください。

幼齢時からに馴染ませ、時々心掛けましょう。特に毛が抜け替わる春から夏にかけては念入りする必要があります。湿気に弱いのでは禁物です。爪が伸びすぎると歩行困難を起こしますので、伸びた場合には爪切りが必要です。

ケージの中だけではが足りません。目の届くときに部屋の中で遊ばせましょう。その際、室内にはケガや事故の原因となるものが多いことに留意し、予め防止策を講じておくことが必要であり、電気コードや観葉植物、家具類、たばこなどがじられたり食べられたりしないように、また、家具類の上の置物が落下しないようにします。

遊ぶときに、敏感なを掴んで持ち上げるのは苦痛となるので禁物です。また、を支えて抱くのは、時にジャンプして落下したときに骨折しやすいので、これも禁物で、抱くときは必ずお尻を支えにしましょう。

30

問④ ウサギの病気等ついて部分に文章を入れてください。

尻に糞がこびりついたりすると下痢をしています。また、ウサギの糞はやや硬めであまり臭いませんが、が悪くなると臭ってきますし、軟便になります。

は細菌感染によるものが多く、腐った食物を与えないことや給水器、食器、環境の清潔を保つことが予防となります。

血便のときは腸内へのという原虫の寄生によるもので、この寄生はウサギには多いといわれ、感染しても元気なときは症状は出ませんが、ストレスなどが原因で現れてきて、発症すると死亡率も高いものです。

糞がいつもより硬くなるとこの病気が疑われます。ウサギは毛づくろいをよくしますので毛を飲み込みやすく、排泄できずに消化管の中にたまと起こります。ひどくなると便秘になり食欲不振、体重減少となります。を怠らず、またおやつが多給などで偏食せず、排泄しやすいように乾牧草を欠かさず与えることが予防となります。

31

モルモットの自主研修(約20分)

質問①→②→③→④にの順にご自身の回答を記入後、別添資料を読み、答え合わせをします。



問① モルモットの生態等

問② モルモットの飼育等

問③ モルモットの食事

問④ モルモットの管理と病気



32

問① モルモットの生態等について青色部分に文章を入れてください。

頬袋はなく、食物を巢内に貯める習性や冬眠習性はありません。□の周囲に皮脂腺があり、尻を押つけて臭い付けをし、嗅覚は敏感で他の個体の臭いを嗅ぎ分けます。聴覚も優れていて、小さな物音にも敏感に反応します。

群居性で、色々な□でコミュニケーションを図っており、オスには順位制があります。食性は□な草食性。

人と同じく体内でビタミン□を合成できない数少ない動物です。

本来は夜行性ですが飼い主の生活に活動周期を合わせることができます。平面活動が中心。□には割合に強く、□に弱い動物です。寿命は5～15年(平均10年)です。

33

問② モルモットの飼育等について青色部分に文章を入れてください。

繁殖適期はメスで生後3か月、オスで4か月以上からで、妊娠期間は約□日、1回に平均4頭を産みます。約2週間で離乳します。

よほどのことがない限り噛み付くこともなく、オットリとした人馴れしやすい性質をもっています。□の量が多いので掃除をこまめにしなければ臭いがきつくなります。

屋外の小屋飼いや、室内のケージ飼いが一般的です。ケージは水平的になるべく広いもの(1頭飼いで少なくとも□cm四方以上が理想的)で、高さは30cm以上あれば天井はなくても大丈夫です。

床には木製のすのこ(□がすっぽりと抜けることのない、また、□を挟むこともない適度な隙間のあるもの)をとりつけ、その上に床材として干し草、ワラなどを多めに敷くと湿気対策になります。

34

問③ モルモットの食事について青色部分に文章を入れてください。

主食は□入りのモルモット専用ペレットにし、毎日朝夕2回与えます。□は空気にふれると壊れやすいので、消費期限に注意し、開封したら保管に注意が必要です。

副食としてビタミンCの豊富な色々な野菜(□は適しません)や、タンパク質が豊富な乾牧草(アルファルファなどのマメ科のものが適切。モルモットは□タンパク質を多く必要とし、また歯の伸びすぎ防止にもなります。)を毎日少しずつ与えます。

ハコベやナズナ、シロツメグサ、タンポポなどの野草も喜びます。ビタミンCの豊富なミカンやイチゴ、キウイ、リンゴなどの果物も、□が多いので与えすぎに注意しながら時々与えましょう。

□補給のためにペット用煮干しも時々与えます。

35

問④ モルモットの管理と病気について青色部分に文章を入れてください。

長毛種は糞がこびりつきやすいので、お尻の部分の毛はカットするなりして、ストレスを感じさせないように注意しながら時々[]も心がけましょう。

[]屋なので1日1回はケージから出して遊ばせることが大切ですが、大声を出したり、急に乱暴に抱き上げて驚かせると[]することもありますので気を付けましょう。機嫌が悪い時に「キー、キー」と鳴いたり歯をガチガチと鳴らしたりすることがあります。

病気発症の場合、ほとんどの例で治療効果が期待できないといわれています。多いのは[]の不足による[]です。

その他、呼吸器疾患や下痢、皮膚病(細菌や疥癬、シラミなどが原因)などがありますが、多くの死亡例は細菌やウイルス、真菌や寄生虫の感染症なので、特に複数飼いの場合は環境の[]さを保つことが大切です。